

第29回日本認知症学会学術集会
プログラム・抄録集
会長 柳澤 勝彦



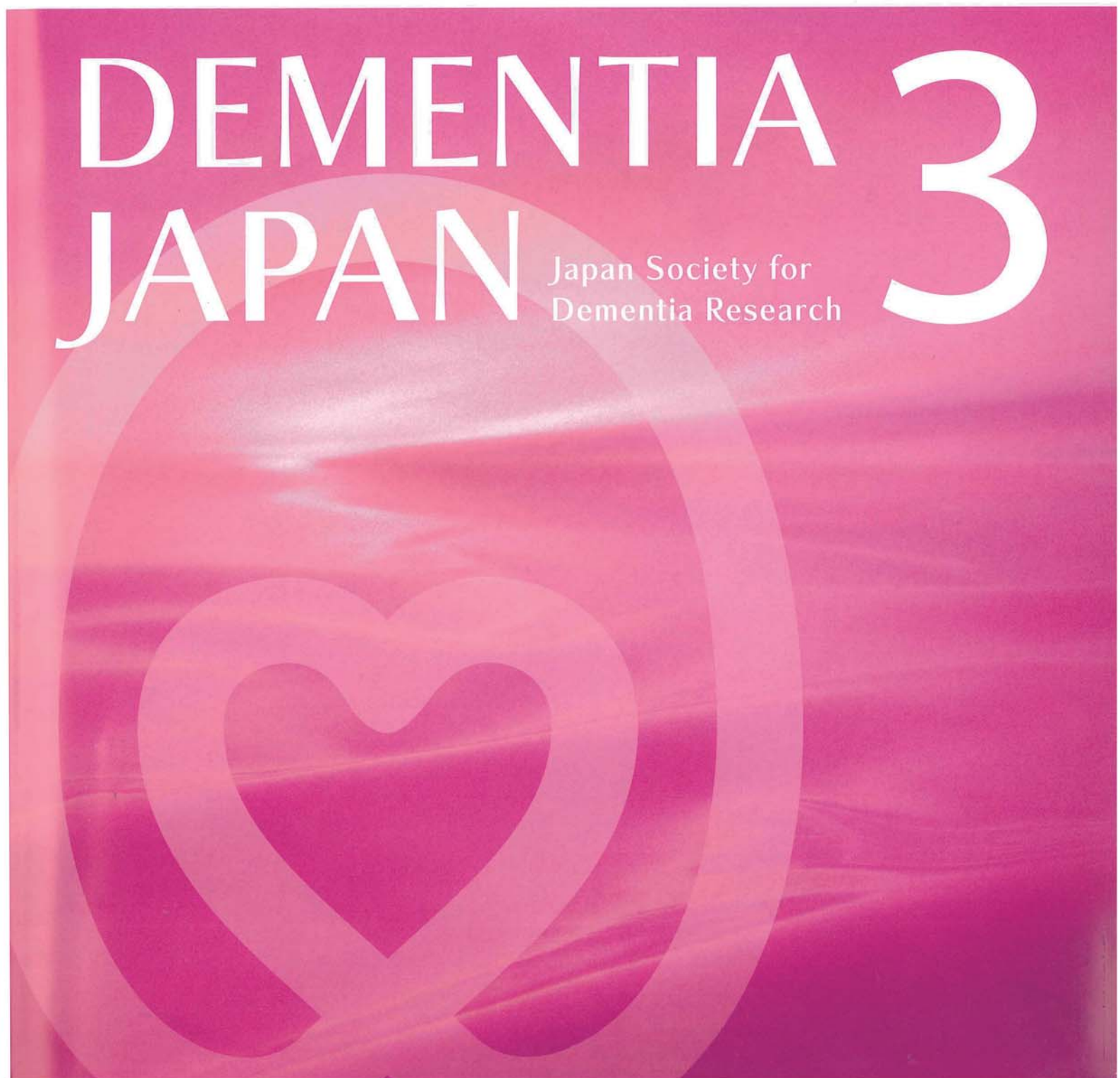
2010
vol.24

日本認知症学会誌

DEMENTIA
JAPAN

Japan Society for
Dementia Research

3



16-04 アルツハイマー型認知症 (DAT) およびレビー小体型認知症 (DLB) の周辺症状におけるフェルラ酸, ガーデンアンゼリカ化合物健康食品<F>の有用性の検討

金谷 潔史¹⁾, 阿部 晋衛¹⁾, 酒井 稔¹⁾, 藤井 広子¹⁾, 岩本 俊彦³⁾, 小泉 潔²⁾

¹⁾東京医科大学 八王子医療センター 老年病科, ²⁾東京医科大学 八王子医療センター 放射線科,

³⁾東京医科大学 老年科

【目的】<F>は、米ぬかから抽出されたフェルラ酸と西洋トウキから得られるガーデンアンゼリカから成る健康食品である。近年、<F>が DAT の中核症状や周辺症状 (BPSD) に有効であり、DLB やピック病、脳血管性認知症の ADL を改善させた。また、フェルラ酸が β アミロイドの凝集を阻止、老人斑の形成を抑制するとの報告がある。われわれは、認知症患者の BPSD に対してこのサプリメントの有効性の検証を、前方視的に行ったので報告する。【方法】外来通院患者から、DAT、DLB の診断が確定しているもの 24 名 (DAT 20 名、DLB 4 名、男性 10、女性 12 名、平均年齢 78 歳) を対象とした。観察期間を 4 ヶ月として <F> を 1 日 2 包 (朝夕 2 回) 最初の 2 ヶ月内服する A 群 12 例、後半 2 ヶ月内服する B 群 12 例に分けてクロスオーバー試験を行った。評価方法は、BPSD の評価尺度の Neuropsychiatric Inventory (NPI) に介護者の負担度 (distress) の評価を加えたスコア NPI-D、認知機能検査としての MMSE、ADAS、うつスケールである GDS15 を <F> 服用前後で測定し、それらの変化を検討した。さらに投与前後で SPECT 検査を行い、脳血流の変化を SPM8 で比較検討した。【倫理的配慮】本研究は、東京医科大学医学研究倫理審査会の承認を得た後に、全ての患者および家族に採血、心理テスト、画像検査のインフォームドコンセントを行い、文書をもって同意を確認した。【結果】検査終了した A 群 12 症例において、平均 NPI score は、内服前の 18.08 から内服後は 10.58 まで有意な低下 ($P=0.046$) を認めた。また、負担度の score も 12.17 から 7.50 まで有意な低下 ($P=0.008$) を示し、フェルガードの BPSD に対する改善効果を示した。投与前後における MMSE、ADAS、GDS15 のスコアに有意差は得られなかった。SPM8 を用いた脳血流量は、<F> 投与後に右後頭葉、左小脳半球に有意な上昇 ($P<0.001$) を認めた。【結論】<F> の BPSD に対する効果の可能性が示唆された。今後も症例を重ねたい。